

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：グローバルトーク もしあなたが故郷を追われたら－難民を知る－（形態：ワークショップ）
2. 実施者：安達三千代（(特活) IVY）
3. 日 時：2015年11月7日（土）（12時30分～16時00分）
4. 場 所：青森県水産ビル（青森県青森市安方）
5. 参加者：24名

6. 実施報告：

青森県国際交流協会は、JICA 東北との共催で“グローバルトーク”というセミナーを毎年開催している。このセミナーでは、参加型ワークショップを通して参加者が国際協力や世界の現状について、理解を深めることを目的としている。今年は、「難民」をテーマに取り上げることになり、2013年からイラクにおいて難民支援を行なっている弊団体に講師の依頼があり、8月から JICA 青森デスクの国際協力推進員（シリア OV）、青森県国際交流協会職員と実際に会ったり、インターネット等で打合せを行い、実現にこぎつけた。

ワークショップは、各グループがシリアに住む1組のクルド系シリア人の家族という設定。導入⇒ラウンドⅠ⇒ラウンドⅡ⇒ラウンドⅢの4部構成で、クイズ形式で難民についての基礎知識をインプットし、その予備知識も生かしながら、クルド系シリア人がシリア紛争に巻き込まれ、難民となってイラク・クルド自治区の難民キャンプにたどり着き、3か月を過ごしたところで次の課題が見えてくるところまでを模擬体験していった。

【流れ】

- 12:30-13:00 クイズ－難民を知ろう
- 13:00-13:45 もし、あなたが故郷を追われたら…ラウンドⅠ、ラウンドⅡ
- 13:45-14:15 休憩
- 14:15-15:00 もし、あなたが故郷を追われたら…ラウンドⅢ
- 15:00-15:30 振り返り・IVYのシリア難民支援について
- 15:30 アンケート記入・閉会

所感及び成果

【工夫したこと】

- ・ 弊団体職員が難民の方々から聞き取った実話を元にシナリオを作った。
- ・ 臨場感を持ってもらうために、会場も、シリア側とイラク側をテーブルで区

切り、国境を越えて、別の場所へ移動するような工夫をした。国境ゲートでは「難民申請書」に記入してもらったり、列に並んでももらったり、「配給カード」を使って家族の食糧を受け取ったり、動きも入れた。ただし、ラウンドIで使用するシリア紛争の写真は、血や死体が写っていない、悲惨すぎない写真を選ぶよう十分配慮した。

- ・ラウンド終了ごとにグループ発表を設けた。

【成果】

- ・NGO 相談員、JICA 国際協力推進員、国際交流協会の三者がそれぞれの経験や持ち味を生かした結果、「難民ワークショップ」という成果物を生むことができた。このワークショップで使用した教材はドロップボックスで3団体が共有する。また、各団体でも自由に使用し、その成果も共有することとした。

＜参加者の評価＞

- ・「進め方が参考になった」「受動的な内容ではなく、グループで考え、能動的に難民問題と向き合うことができて満足している」「難民キャンプの様子を知ることができた。難民登録までの過程を実際に体験することができた」「ワークショップ形式で参加者みなが楽しみながら学べた最新の情報を知ることができた」「現地の生の情報を知ることができた」「今まで知らなかったことを知ったり、他の人と考えを共通できた」「じっくり考える時間はなかったのですが、焦らずに判断する事ができ満足です。→講師の方の時間配分に満足です」「こういった座学的なイベントでは集中力を持続させるのが難しいのですが、最後までよく考えることができた」等、最初の実施ではあったが、進行も含めおおむね好評だった。

【課題】

- ・シリアでは女性と子どもだけで逃げた割合は少なく、男性が必ず付き添う割合が高かったが、今回はほとんどのグループが女性と子どもだけを先に逃し、結果、難民キャンプも働き手がいないので出たくても出られないという結果となった。家族構成を各世帯で変える等の改良の必要性を感じている。

＜参加者の評価＞

- ・「参加型で主体的に学ぶことが出来たが、より基礎的な話をもっと聞きたかった」、また高齢者や参加型は初めてという方からは「時間が長い」「難しいなァ」等の感想も聞かれたので、参加者の顔ぶれによって、工夫が必要だと感じた。

【添付資料1 作成した教材一例、当日の写真等】

世界の難民 1,000,000人以上 1,000,000人～100,000人 100,000人以下 世界地図に、国や地域ごとに難民の人数を色分けで示している。1,000,000人以上の国は赤、1,000,000人～100,000人は緑、100,000人未満は青で示されている。	難民って誰のこと？ A 干ばつのために食糧が不足し、隣国へ逃れた人 B 政府に対する民主化要求デモに参加したために、逮捕、拘留されている人 C 自国が貧しいため、より良い暮らしを求めて外国へ移った人 D ダム建設のために政府により強制的に他の地方に移住させられた人 E 政府を批判する新聞を発行したために、圧迫を受け、外国へ逃れた人 F 隣国との戦争のため、戦火を避けて国内の他の村へ逃れた人 G 地球温暖化のために島が沈没し、他の国に移った人 H 民族対立による内戦が激化したため、隣国へ逃れた人 I 留学中に政変があり、自国へ戻ると迫害を受けるおそれがある人
難民クイズー難民を多く出している国を予想してポストイットを貼る。	難民クイズーこの答えが後々、「難民登録申請」をするときの鍵を握る。

難民クイズー白地図にポストイットを貼る参加者。	ラウンドIーシナリオを読むファシリテーター（NGO相談員）

シリアで実際に起こった出来事の写真5枚1組を古い順に予想して並べるアクティビティ。	グループごとに時間軸で縦に並べた写真。微妙に順番が違って面白い。



いよいよ町から逃げるために立ち上がったところ。「国境」と書かれた位置まで移動する。



国境でもらった「難民登録申請書」を1家族1組、記入しているところ。

JIRA

Japan International Refugee Agency

photo

JIRA No.

Name(名前)

Nationality(国籍)

Date of Birth(生年月日)

Sex(性別)

Date of issue(発行日)

Date of Expiry(満了日)

JIRA



難民申請が通れば、こんな難民登録証が発行される。

ラウンドⅢー難民キャンプ到着後1か月。5枚の写真をじっくり見て、気づいたことを話し合う。



ラウンドⅢー難民キャンプ3か月目。衛生問題や子どもの教育、治安の悪化、医療、将来のこと等、キャンプ内での課題も目につき始める。そこにキャンプを出た人の情報を載せたかわら版が配られ、キャンプを出るか、残るか、最後の話し合いがされた。



終了後に、ワークショップで取り上げた話は実際にイラク北部のクルド自治区に逃げてきたクルド系シリア難民の実情に近いことを種明かし。

参加者からはワークショップ中も後からもたくさんの質問が寄せられ、難民への関心の高さがうかがえた。

添付資料2 アンケート結果

グローバル・トーク『もし、あなたが故郷を追われたら…』 アンケート結果

回答数：18 （参加者数：24）

1. あなたの所属について教えてください。

1. 学生：4	2. 教職員：2	3. 国際協力・交流団体：0	4. NGO 関係者：1
5. 民間企業：3	6. 公務員：1	7. 青年海外協力隊経験者：1	8. その他：6 (無職2、個人活動1)

2. このセミナーをどのようにお知りになりましたか？

1. チラシ：6 ・社会教育センター ・保健大学 ・あおもり地球市民講座で	2. 知人からの紹介：8	3. ホームページ (JICA 東北/青森県国際交流協会)：1	4. Facebook：0
5. メーリングリスト：2 ・国際交流協会 ・JICA	6. 新聞・地域広報誌：	7. ダイレクトメール：0	8. その他：2 ・父より ・国際交流つうしん：4

3. セミナーの内容に満足されましたか？

1. 大変満足：9	2. 満足：7	3. やや不満：2	4. 不満：0
-----------	---------	-----------	---------

4. どのような点が満足/不満でしたか？

コメント ・進め方が参考になった ・参加型で主体的に学ぶことが出来たが、より基礎的な話をもっと聞きたかった ・受動的な内容ではなく、グループで考え、能動的に難民問題と向き合うことができて満足しています ・難民キャンプの様子を知ることができた。難民登録までの過程を実際に体験することができた。 ・ワークショップ形式で参加者みなが楽しみながら学べたところ ・最新の情報を知ることができた。現地の生の情報を知ることができた。 ・今まで知らなかったことを知ったり、他の人と考えを共通できた点 ・難民についてよく知ることができました ・この様なワークショップははじめてでした ・じっくり考える時間はなかったのですが、焦らずに判断する事ができ満足です。→講師の方の時間配分に満足です。 ・時間が長い ・知らない人との意見交換をできてとてもよかった

5. プログラム構成や内容はいかがでしたか？

1. 全て妥当：10	2. おおむね妥当：7	3. あまり妥当ではない：1	4. 全く妥当ではない：0
------------	-------------	----------------	---------------

6. その理由は？

コメント ・とてもわかり易かった。子どもたちにもっと必要。 ・難しいなァ ・参加型で主体的に学ぶことが出来たが、より基礎的な話をもっと聞きたかった ・こういった座学的なイベントでは集中力を持続させるのが難しいのですが、最後までよく考えることができたからです ・最初の時間をみて長いと感じましたが、休憩時間もあり、楽しく講義を受けられたから ・難民のクイズ、説明があったことが良かった。全体から具体へという流れ。 ・プログラムへの参加度が高い ・他は知らないが、スタッフが非常に熱心で感動しました ・専門的な質問も、難しくてあきらめてしまうのではなく、何とか考えて自分の意志を伝えることができたから ・時間がすぎるのがあっという間でした ・クイズが途中にあっておもしろかった

7. セミナーで得たことを、今後どのように活かしますか？

1. 日常生活：2	2. 授業・ワークショップ・セミナーなど：4	3. 身近な人に伝える：9
4. 検討中：3	5. その他：1（個人での活動に）	

8. 今後、国際交流や国際協力へ参加したいとお考えですか？

1. とても参加したい：3	2. 機会があれば参加したい：7
3. 興味はあるが参加は難しい：0	4. 参加したくない：0

9. どのような活動に参加したいとお考えですか？

コメント ・イベント、研修会等、都合のつく限り ・ワークショップ ・青森在住の外国人の生活環境向上 ・高校生、大学生への国際協力に関する関心を促すこと ・いろいろ
--

10. その他お気づきの点がありましたらご記入ください。

・様々な準備など、ありがとうございました ・進行の仕方が素晴らしい
--

1 1. 今後、このような講座やイベントの案内を希望しますか？

1. 希望する：7

2. 希望しない：

添付資料3 河北新報 ワイド東北版掲載記事

1 公 子 高 日 10 て き の き た 十 見 婦 の は 史 。 ら 44 い た カ 作

いのちと
地域を
守る

シリア難民の現状報告
青森 国際NPOなど理解訴え

内戦が続くシリアからイラク国内のクルド人自治区に逃れたシリア難民の現状を学ぶワークショップが7日、青森市の水産ビルであり、市民ら約20人が難民申請の難しさなどについて理解を深めた。

シリア難民の現状を学ぶ参加者

NPO法人IVY（山形市）と国際協力機構（JICA）東北支部が企画した。IVYは2013年秋からクルド人自治区で支援活動を行っている。

参加者は6グループに分かれ、周辺国に逃れるシリア人一家という設定で、難民登録申請書の記入や食料の配給を疑似体験。本来の難民申請は明確な理由が必須

要で、各グループは申請する人数や家族の病状、経済状態などを真剣に話し合った。

家族で参加した青森市の高校2年相馬未来さん（17）は「最初は難しかったが難民の仕組みが分かった。助けてあげられることをしたい」と話した。IVYの安達三千代事務局長は「普通の生活が壊れるのは難民も東日本大震災も変わらない。難民問題に共感できるようになることが大事だ」と語った。

までは防災をあまり気にしていなかった。今回を機会に、災害に対して常にアンテナを張っていたい」と話した。

東北森林管理局長
瀬戸 宣久さん（57）

若いころ、いわき市に異動したことがあります。東北森林管理局が管轄する福島以外の東北5県で仕事をするのは初めて。まずは東日本大震災で被災した海

の松

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：アミカス記念祭（形態：相談対応）
2. 実 施：（特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 日 時：2015 年 11 月 7 日（土）（10 時 00 分～19 時 00 分）
8 日（日）（10 時 00 分～17 時 00 分）
4. 場 所：福岡市男女共同参画推進センター
5. 参加者：332 名

6. 実施報告：

実施内容

本企画では、来場者に対して国際協力に関する疑問や質問（ボランティア、就職相談、NGO 活動等に関する物）に答えることで、国際協力の理解を促進し、参加する市民を増やすことを目的に実施する。具体的には NGO 相談員コーナーをブース内に設け、対面式で来場者からの相談に応じる。また、来場者には NGO 相談員のチラシを配布し、宣伝を行う。

所感及び効果等

今回初めてアミカス祭に参加してみました。アミカス祭に訪れる来場者の皆様はどちらかと言えば年齢層が高く、家族連れが多いお祭りになっています。立地条件も良く参加者も多く賑わいのあるお祭りになっています。しかし国際協力や NGO についてあまり知らない、興味がないと思われる感じがあります。だからこそ今回は是非とも関心を深め持ってもらえればと企画をしてみました。パネル展示などに工夫凝らし、普段触れる事のない現状を知って貰う事が出来たのではないかと思います。展示を見た後に資料や NGO 相談員のチラシを進んで持ち帰ってもらう姿があったのは印象的でした。NGO 相談員コーナーにもたくさんの皆さんが足を止め、質問や雑談をして行かれました。

海外でボランティアがしてみたいので団体を立ち上げたいと思っていたが、こうした相談を受けてくれる団体がある事を初めて知った。今日この会場に来て良かったと、喜んでくれた新しい出会いもありました。「何やってる団体ね」「自分もまだボランティアが出来るね」など、黄色の大きなポスターをまじまじと見ながら質問や疑問をいただき、たくさんの方々に興味を持ってもらえた企画になったのではないかと思います。



会場の様子



相談対応の様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：日進中学校「国際理解教室」における講演
(形態：相談対応)
2. 実施者：吉田文 ((特活) アイキャン)
3. 日 時：2015 年 11 月 13 日 (金)
(13 時 35 分～14 時 20 分)
4. 場 所：日進市立中学校 (愛知県日進市本郷町西原中通)
5. 参加者：229 名

6. 実施報告：

日進中学校が毎年実施している「国際理解教室」において、3 年生 217 名及び教員 12 名を対象に、「フェアトレード」をテーマに講演を実施した。

〈所感及び効果等〉

フェアトレードというテーマを通して、教育や貧困問題を包括的に理解できるよう、フィリピンのフェアトレード生産者団体及び生産者の抱える問題を取り上げるとともに、それに対する NGO の活動成果を伝え、中学生が実践できる身近なボランティアや実践例についても紹介した。講演後、生徒からは「このような現状があることを初めて実感できた。」「自分にできることとして、フェアトレード商品を積極的に購入したい。」「募金活動に参加したい。」などの声が上がった。担当教員からは、「写真を通して現地の様子を身近に感じることができた。生徒の心にも残ったに違いない。生徒はこれからの人生に役立てていくだろう。」という感想を頂いた。本講演を通して、中学生がフェアトレードの話を通して世界の現状や課題を知り、それに対して身近にできるボランティアの提案や行動変化を与えるきっかけ作りができた。



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：星城中学校での国際協力についての講演及び交流
(形態：相談対応サービス)
2. 実施者：坂西卓郎 ((公財) PHD 協会職員)
3. 日 時：2015年11月12日 (木)
(11時00分～13時30分)
4. 場 所：星城中学校 (愛知県豊明市栄町新左山)
5. 参加者：32名

6. 実施報告：

星城中学校の中学一年生に国際協力概論やアジアの国の事情についてレクチャーを行った。

内容としては国際協力概論を最初に行い、国際協力の全体像を捉えた。中学一年生が対象だったので、「魚を与えるか、魚の釣り方を教えるか」という比喻を用いて、できるだけわかりやすく伝えた。続いてアジアの国の事情としてネパール、ミャンマー、インドネシアについて伝えた。ネパールに関しては国の概要だけでなく、4月に発生した大地震について伝えた。さらにネパールの今の状況として、インドとの政治問題から発生した国境封鎖、そしてその結果として燃料不足についても解説を行った。ミャンマーに関しては先日行われた総選挙についても触れた。

特にミャンマーに関しては同校が文部科学省のスーパーグローバルハイスクールアソシエイト校でもあり、12月に一部の生徒がミャンマーに行くことになっており、強い関心があったので詳しく話をした。その上で簡単なミャンマー語の講座も行った。その後、民族衣装の着付け体験を行い、アジアの国々について触れてもらう機会を提供した。それぞれ女性、男性の代表が3～4名ミャンマー、インドネシア、ネパールの衣装を着て、感想を発表した。またミャンマーの日焼け止めであるタナカー体験も行った。終了後は給食のプログラムと一緒に参加し、交流を深めた。

学生が12月にミャンマーに行くことや総選挙、ネパールの大地震など時事ネタや国際関係の話をすることで、生徒の方は大変強い関心を持ってくれた。優秀な生徒たちなので、今日の講義や出会いが将来につながると思われ充実した時間となった。

添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



「星城中学校での国際協力の講演」の様子①
 NGO 相談員制度についての説明をしているところ。



「星城中学校での国際協力の講演」②、③
 民族衣装の着付け体験など、体験講座をしている様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：第 13 回 NGO スタディツアー合同説明会
(形態：相談対応サービス)
2. 実施者：佐藤 瞳、大豊 盛重 ((公社) 日本国際民間協力会)
3. 日 時：2015 年 11 月 14 日 (土) (13 時 30 分～17 時 00 分)
4. 場 所：龍谷大学 大阪梅田キャンパス
(大阪府大阪市梅田)
5. 参加者：65 名

6. 実施報告：

NGO スタディツアー説明会は、今秋から来年春の期間にスタディツアーを予定している NGO による合同説明会で、年に 2 回、6 月と 11 月に開催されている。11 月 14 日に龍谷大学 大阪梅田キャンパスで開催された第 13 回となる本イベントには、NGO 計 14 団体が出展し、参加者へスタディツアーを紹介した。当日は、スタディツアーや国際協力に関心を持つ学生 41 名、社会人・シニア世代 24 名の計 65 名が参加し、さまざまな団体のブースを自由に回り説明を受けた。

弊会は、会場内に NGO 相談員ブースを出展し、国際協力や NGO 全般に関する相談を受け付けた。例年、実施時間内に相談者が途切れることがない傾向にあり、関西地区の 2 団体が合同で出張対応してきたが、本年は他 2 団体がスケジュール等の関係により対応できなかったため、弊会の佐藤・大豊による二人体制で相談対応を行なった。参加者が自由にブースを訪問することができる約 2 時間半で、14 件 19 名が NGO 相談員ブースを利用した。

相談対応件数

14 件 19 名

相談者

大学生、社会人、主婦、シニア層 等

当日の主な相談内容

- ・国際協力業界に就職するには
- ・将来国際協力を仕事にするための大学の過ごし方
- ・英語の学習方法
- ・ボランティアやインターンに参加してみたい
- ・NGO スタッフの待遇について

- ・スタディツアーとは？普通の旅行との違い
- ・NGO とは？NGO と NPO の違い
- ・スタディツアーに参加する前にしておくべきこと
- ・スタディツアーに参加したいが、どこに行けばいいのか？
- ・医療系のスタディツアーはないか？

<所感及び効果>

・スタディツアーを国際協力業界でのキャリアの第一歩と考える意欲の高い学生からの相談が多く、国際協力を仕事にするための進路形成や大学在学中の過ごし方、インターンやボランティアへの参加方法などに関する相談を受けた。相談員の経験を踏まえた具体的なアドバイスを心がけた。

・本イベントに参加したものの、国際協力や NGO への知識がないため、他団体のブースから NGO 相談員ブースを紹介されたケースも見られた。多くの参加者への対応を迫られる参加団体にとって、知識の少ない参加者へスタディツアーの前段階となる国際協力や NGO に関する基礎知識を提供する NGO 相談員ブースの存在意義は大きいように感じられた。そのような参加者には、NGO や国際協力、在学中に進めるべき学習や参加可能なインターン・ボランティア活動などについて丁寧に説明した。また、スタディツアーの中でも比較的事前知識が必要ないものを数件紹介し、国際協力へ興味を持った参加者が熱意を失うことのないよう、該当団体ブースでのさらなる学びと活動参加を促した。

・社会人やシニア世代の参加者は、国際協力そのものに関心があるというよりは、アフリカなど通常の観光ではなかなか行くことのない土地への旅行経験があり、より希少な土地や体験を求めてスタディツアーへ興味を持つケースが多いように見受けられた。そのような参加者は、NGO という存在について無知または懐疑的な傾向が強く、ミッションや組織運営、特徴や歴史などを、企業や行政と比較しながら説明した。また、NGO や現地の人々との触れ合いなど、観光では得られないスタディツアーの魅力を紹介し、社会人やシニア世代の国際協力への参加促進に向け働きかけた。

・来場者アンケートでは、「今まで知っている、勉強している分野の話を変えて聞いて、知らないことを発見することもできたし、全く知らない分野での気付きもあった。来て本当によかった。」「こういう場所に参加して、改めて国際協力についてもっと知りたいと思いました。また、自分の本当にやりたいことを、この説明会を通して知るきっかけとなりました。」という感想が見られた。

<活動風景（写真記録）>



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名： HUG2 祭り 2015
(形態：相談対応サービス)
2. 実施者：佐藤 瞳 ((公社) 日本国際民間協力会)
3. 日 時：2015 年 11 月 15 日 (日) (10 時 00 分～15 時 00 分)
4. 場 所：奈良市ボランティアインフォメーションセンター
(奈良県奈良市三条本町 13-1)
5. 参加者：600 名

6. 実施報告：

「HUG2 (はぐはぐ) 祭り」は、奈良市内で活動を行なうボランティアグループ、NPO、市民公益団体などが、活動の発表や交流を通して、一般市民のボランティア活動や市民公益活動への理解促進と団体同士のネットワーク形成を目指す取り組みである。11 月 15 日にはぐくみセンター (奈良県奈良市) で開催された本イベントには、43 団体が参加し、ステージ発表、物品の販売、パネル展、相談・体験ブース、キッズコーナー、活動紹介などを行なった。奈良市内の主婦、シニア層、家族連れ、学生など、約 600 名が来場した。当日は、来場者の積極的なブース訪問を促進するための試みとして、バスなどに使用可能な奈良市ポイントを獲得することができるスタンプラリーも開催され、来場者は各ブースに設置されているシールを集めるためにさまざまなブースを回っていた。

弊会は、会場に NGO 相談員ブースを出展し、国際協力や NGO 全般に関する相談を受け付けた。前述のスタンプラリーの効果もあり、約 160 名が NGO 相談員ブースを訪れ、国際協力や NGO 相談員制度に関する理解を深めた。うち 28 名の相談・質問に対応した。

なお、本イベントへの NGO 相談員ブースの出展は、JICA 関西・国際協力推進員奈良県担当のご協力により企画が実現した。

相談者

主婦、シニア層、家族連れ、団体職員、学生、教員など

当日の主な相談内容

- ・ NGO とは？
- ・ 日本でできる国際協力の活動
- ・ シニアでもできる国際協力の活動

- ・パリのテロやイスラム教について
- ・NGO スタッフの海外駐在時の危険性やリスク管理について
- ・奈良で国際協力を身近に感じてもらうには（国際協力団体職員より）
- ・国際協力や世界の情勢について講演してくれる人を探している（公民館職員より）
- ・生徒の世界情勢や国際協力に対する関心を高めたい（教員より）

<所感及び効果>

・奈良市ポイントを獲得することができるスタンプラリーの実施により、国際協力への関心の有無に関係なく、幅広い層が NGO 相談員ブースを訪れたため、通常はアプローチできない層にも国際協力や NGO、NGO 相談員制度などについて紹介することができた。パリでのテロやシリア難民問題など、近日メディアで取り上げられている話題を織り交ぜることで、国際協力や NGO の活動を少しでも身近に感じ、興味関心を持っていただけるよう努めた。

・大阪・兵庫・京都などと比較して、奈良では国際協力活動を行なう団体の規模や数が小さく、多くの一般市民にも「国際協力＝遠いもの」と認識されている印象を受けた。一般市民の関心の低さが国際協力団体の財源や人材の確保に影響し、団体の規模や数を拡大できない現状につながっている。同様の懸念は国際協力推進員や本イベントに出展している国際協力団体からも聞かれ、まずは国際協力を一般市民に広めていくアクターを増やすために、奈良で活動する国際協力団体の能力強化が急務であり、NGO 相談員としても貢献できる分野ではないか、という共通認識に至った。今後は、本イベントで築かれたネットワークを生かし、国際協力推進員とも協力しながら、奈良市内の国際協力団体の能力強化に取り組んでいきたい。

・一般市民の国際協力に対する関心の低さは、上述のように一般市民へ働きかける国際協力団体の能力強化を図ると共に、小中高校など早い段階から国際協力に触れ、身近に感じる機会を提供することが有効なのではないかと考える。NGO 相談員は、国際協力に関心が高く、将来的に同分野で活躍する人材の育成に大きく貢献できる可能性がある。教育関係者や特にスーパーグローバルハイスクール（SGH）と関係を構築し、新たな協働を検討したい。

＜活動風景（写真記録）＞

NGO 相談員ブース



イベント風景



NGO 相談員出張サービス実施報告書

企画名：「地球人の母子保健医療」～出雲市多文化共生のとりくみ～
(形態：講演)

実施者：陰山 亮子 ((特活) AMDA 社会開発機構)

日 時：2015年11月17日 (火)
(18時30分～20時00分)

場 所：出雲市役所 (島根県出雲市今市町)

参加者：39名

実施報告：

実施の概要

目的： ホンジュラスで母子保健活動を行う駐在スタッフが、途上国の現状及び、日本 NGO 連携無償資金協力で建設した「妊婦の家」を始めとする現地での活動を報告することにより、参加者に国際協力活動の現場の活動について知ってもらい、国際協力への関心を高めることを目的とした。

また、実際に活動を行う際に必要とされる配慮等も含めた話しをすることで、医療従事者等、日本で外国人とさまざまな場面で接する関係者が、より円滑に活動を進められるようになることを目的とした。

実施内容：ホンジュラス駐在スタッフから現地の母子保健活動を報告した。あわせて、日本で外国人と向き合っている関係者に対し、必要な視点や国内での支援ツールを紹介した。

所感・効果

当日は5歳の幼児1名を含む、上は75歳までの市民39名が参加した。ホンジュラス駐在スタッフより、主に NGO が ODA のスキームを活用して行う現地の活動について報告を行った。出張者は、現場でのプロジェクトの担当者であり、受益者の声や具体的な例などを用い、また、ホンジュラスの文化を紹介するためにスナックやコイン等を用いながら参加者の関心をひきつつ講演を行った。終了後参加者からは、大変わかりやすく、ホンジュラスという国が身近に感じられた、との感想や寄せられ、国際協力への関心が高まったと考える。

特に、地理的にも遠く、日本にそれほど接点のない中米のホンジュラスで、支援が必要とされる状況であること、その支援を ODA のスキームである日本 NGO 連携無償資金協力及び JICA 草の根技術協力を活用して行っている

ことを理解いただくことができた。

また、講演には医療関係者 4・5 名と、日常的に外国籍の住民に接する機会のある 5・6 名が参加しており、中でも、出雲市の企業に外国籍の労働者を多く派遣している会社の担当者が当法人の案内に応じて参加し、従業員が医療機関を受診する際の支援となる情報について従業員に周知したいと言って帰ったのは、当法人のグループ所属団体としての強みを生かすことができた好例と考える。



講演を行う陰山亮子



ホンジュラスの位置を示す参加者



会場の様子



会場の様子



会場の様子



資料コーナー

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：京都文教大学 国際協力論講義
(形態：講演)
2. 実施者：佐藤 瞳 ((公社) 日本国際民間協力会)
3. 日 時：2015 年 11 月 18 日 (水) (10 時 40 分～12 時 10 分)
4. 場 所：京都文教大学 (京都府宇治市槇島町千足)
5. 参加者：37 名

実施報告：

京都文教大学の国際協力論は、激動する国際社会を理解し、そこで活躍する人材として成長することができる環境の提供を目的として、国際協力のアクターや日本の ODA について学ぶものである。日本輸出入銀行（現国際協力銀行）、世界銀行出向の経歴を持つ島本晴一郎教授が担当されている。

11 月 18 日の第 8 回講座では、弊会佐藤がゲスト講師として登壇し、「国際協力における NGO の役割と課題～日本国際民間協力会の活動より」と題した講演を行なった。京都文教大学の 2 回生から 4 回生や、大学コンソーシアム京都の単位互換制度を利用する他大学の学生など、計 37 名が出席した。

講演では、NGO とは何か、歴史や役割、特徴、日本の NGO の強みと弱みなどについて語り、弊会の歴史や活動内容を具体例として紹介した。海外への渡航経験が少ない受講者もいたことから、現地の状況や人々の生活、NGO の草の根レベルでの活動がよりわかるように、弊会佐藤が現地赴任し立ち上げに携わった外務省日本 NGO 連携無償資金協力によるケニアでの農村開発事業の映像を活用した。講演後は、日本の国際協力や NGO に関する受講者の質問や相談を受け付けた。

<所感及び効果>

・今回の講義では、受講者の大半が途上国での経験がなく、できる限り具体的にわかりやすい講義を行ないたい旨を、事前に島本教授から相談を受けていた。そのため、通常言葉と画像を使用した講演に加え、弊会がケニアで活動を行なう村の様子や、活動内容、被益者である村人の暮らしや活動への期待、成果などを紹介する映像を活用した。動きと音声のある映像が伝えることのできる情報は多く、国際協力や NGO、ケニアに関して、受講者の理解をより深めることができたと感じられた。

・講演後、本講義担当の島本教授からは「佐藤さんが学生時代から培われた情熱と、その後の草の根の現場でのご体験から、お話になる一言一言に臨場感があり、現場を見てきた人のパワーが伝わってまいりました。」というコメントを頂いた。

・講演後は受講者からの質問や相談に対応した。活動地や被益者の選定方法、自立を促すための努力、現場での苦勞、活動完了後の活動の持続性の確保など、NGOの現地での活動に関する問いが多数寄せられ、できる限り臨場感のあるわかりやすい回答を心がけた。このように、現地で活動経験のある職員が、現場の生の声を届けることができるのが、途上国で活動を行なう弊会の強みであると考えます。また、進路に関する相談では、同じく京都の大学出身で国際協力を志した経歴のある弊会佐藤が、大学在学時にできる努力や卒業後の進路形成などについて、自身のキャリアパスを具体例として挙げながら詳しく紹介した。

<活動風景(写真記録)>



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：共立女子短期大学での国際協力の講演
(形態：講演)

2. 実施者：坂西卓郎 ((公財)PHD協会職員)

3. 日 時：2015年11月18日 (水)
(10時50分～12時20分)

場 所：共立女子短期大学 (東京都千代田区一ツ橋)

4. 参加者：32名

5. 実施報告：

共立女子短期大学の1年生を対象に国際協力の講義を行った。講義内容は「国際協力概論」、「アジアの村の状況及び生活」、「ミャンマースタディツアーについて」であった。

今回は当会のミャンマーツアーに参加してくれた学生が企画してくれたもので、「自分の後輩である短期大学生にも早い時期に国際協力に触れて欲しい」という想いがきっかけとなっている。よって、国際協力の全体像の話をしてから、当会の研修生の出身国であるミャンマー、インドネシア、ネパールの時事ネタとしてミャンマーの総選挙、ネパール大地震、インドネシアの森林火災などの話題を挟みつつ、国際協力をわかりやすく伝えるように努めた。

その後、ツアーに参加してくれた学生が先輩としてミャンマーツアーのプログラムや参加して得た感想などを話してくれた。学生たちは先輩の話に大いに刺激を受けたようだった。

最後に当会の研修生も交えてグループディスカッションを行った。今回の目的である国際協力に身近に触れてもらうためにも、一方的な講義だけでなく、グループでざくばらんに話した方が学生たちの心に残ると思われたからである。グループディスカッションでは限られた時間であったが、一年生らしい素朴な質問が行われていた。

今回の出張サービスの成果であるが、学生たちは終始真剣に話を聞いてメモなどをとっており、大変熱意が感じられた。またグループディスカッションでは活発な意見交換もあり、終了後にも質問や写真を求めてくる学生もあり、国際協力に触れてもらい、興味を持ってもらうという目的は十二分に達成できたと思われる。今日の学生の中から一人でも二人でもスタディツアーに参加してくれる学生がでることを

期待したい。

添付画像: 別紙に当日の様子を3枚添付



「共立女子短期大学での国際協力の講演」②、③

スタディツアー参加者の学生とミャンマーツアーの体験や学びについてのトークセッション



「共立女子短期大学での国際協力の講演」の様子①
NGO 相談員制度についての説明をしているところ。



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：国際協力キャリアフェア 2015
(形態：相談対応)
2. 実施者：伊藤衆子、井端梓 ((特活) 国際協力 NGO センター)
3. 日 時：2015 年 11 月 28 日 (土) (10 時 00 分～17 時 00 分)
4. 場 所：TKP 赤坂カンファレンスセンター
(東京都港区 赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館)
5. 参加者：38 名
6. 実施報告：

国際協力キャリアフェアは、国際協力業界での就職・転職を希望する一般来場者を対象に開催されており、当日は政府機関、国際機関、企業、教育機関 (大学・大学院・留学)、NGO など約 30 団体が出展、来場者数約 330 名に対応をした。

当センターは相談員ブースに常時合計 2 名を配置し、国際協力の分野への就職・転職に関する相談対応を実施した。相談員ブースとは別会場で開催の各種セミナー終了時などは、多くのセミナー参加者が相談員ブースへ移動し、対応をお待ちいただく時間帯もあった。以下、対応詳細。

主な相談内容：

- ・専門分野 (栄養士や畜産等) を活かして、NGO で働くためにはどうしたらよいのか。
- ・次年度の就職活動に向けて、国際協力分野を考えているが、どんな職種があるのか (NGO に限らず)。
- ・新卒採用はあるのか。
- ・社会人経験の中で、どのような能力を身に着けると NGO への転職に有利か。
- ・職場としての NGO はどのようなものか。

所感

相談に来られる方には、「国際協力関連はどのような職種があるのか」と、NGO に限らず概要を知りたいという方も多く、国際協力に関わるアクターが NGO だけでなく、政府、国連、企業等のさまざまであること、その中での NGO の特色を伝え、またそれらが協働関係

を持って活動している状況を積極的に伝えるように心がけた。国際協力についての基本的な情報について、広く市民に知っていただける機会となった。

例年学生からのインターン制度についての相談が多いことを勘案し、相談ブースに当団体のユース組織メンバーを補足的に配置した。結果、特に学生の相談者に、同じ学生の活動の実体験を伝えることができたと考えている。

今後も継続的に本イベントのような場で、NGO・国際協力分野で働きたいという一般市民の相談に対応することにより、国際協力についての情報を伝えることは、本出張サービスの重要な役割と言える。

相談対応の様子

